

議 長	局 長	課 長	課長補佐	係 長	課 員
					

様式第4号（要綱第3条関係）

令和 6年 8月 14日

田村市議会議長 大橋 幹一 様

会 派 名 無 会 派

代表者名（議員名） 半 谷 理 孝 

政 務 活 動 報 告 書

区 分（○で囲む）	<u>調査研究</u> 研修 広報 広聴 会議 / 要請・陳情活動
期 間	令和 6年7月15日(月) ～ 令和 6年7月 18日(木)
参 加 者 氏 名	半谷理孝
訪問先の応対者 〔名刺の写し添付〕	
場 所 〔調査、研修、訪問先 要請・陳情場所等〕	北海島釧路市、中標津町、大空町、美幌町
行 程 (別紙添付も可)	7/15 1日目 釧路市移動 7/16 2日目 釧路市、中標津町 7/17 3日目 大空町、美幌町 7/18 4日目 田村市帰庁
内 容 ・ 成 果 等	政務調査については、私が体調不良により7月14日から7月30日まで入院したため中止としました。



議 長	局 長	課 長	課長補佐	係 長	課 員
					 

様式第4号（要綱第3条関係）

令和 7年 2月 25日

田村市議会議長 大橋 幹一 様

会 派 名 無 会 派

代表者名（議員名） 半 谷 理 孝 

政 務 活 動 報 告 書

区 分（○で囲む）	<u>調査研究</u> 研修 広報 広聴 会議 / 要請・陳情活動
期 間	令和7年1月28日（火）～ 令和7年1月29日（水）
参 加 者 氏 名	半谷理孝
訪問先の応対者 〔名刺の写し添付〕	別添資料に添付
場 所 〔調査、研修、訪問先 要請・陳情場所等〕	静岡県伊豆の国市 神奈川県南足柄市
行 程 (別紙添付も可)	1/28 1日目 静岡県伊豆の国市 1/29 2日目 神奈川県南足柄市
内 容 ・ 成 果 等	別添資料添付



政務調査地

伊豆の国市 1月28日 1日目 14:30 ~16:30
場 所 韮山文化センター(韮山時代劇場)映像ホール
進 行 望月事務局長

はじめに伊豆の国市議会議長柴田三敏氏より歓迎の挨拶があり、その後に至誠会代表大和田博が挨拶をした。調査項目については、各担当者から説明があり、その後で現地視察を行った。最後に吉田副代表が御礼の挨拶をした。

調査内容

1.就農者(ニューファーマー)の育成支援について

- ・伊豆の国市の概要について説明があった。

人口が 46,378 人 面積が 94.62 km²

伊豆の国市は四季折々の自然景観と歴史・文化のかおるまちで伊豆の北部に位置しており平成17年に伊豆長岡・韮山町・大仁町の3町が合併して誕生した。

東京からは100km県内にあり東海道新幹線や東名高速道路を使えば、東京までは2時間弱でアクセスが可能である。

- ・栽培に関する技術営農指導について

指導農家・県・市・JA が連携し、新規就農希望者に実践研修や就農準備などの総合支援を行い、地域の担い手として育成する。

研修作物はイチゴ、ミニトマトで研修期間は14か月(事前研修2か月、実践研修12か月)行う。栽培は高設で行い、イチゴの品種は、きらびか・べにほっぺ・あま姫である。地域受入連絡会は、国の規定により研修機関として県知事から認定された組織があり、JA、伊豆の国市、市農業委員会、県農林事務所、研修受入農家が構成員としている。

- ・就農及び資金計画の作成指導について

応募時点で希望産地・作物を3つ決め農業体験や研修農家の個別訪問を行う。

- ① 現地見学会開催で研修受け入れ農家を選ぶ。
- ② 就農準備セミナーとして先輩農家からアドバイス等の講義を行う。
- ③ 面接で資金・就農準備・心構えなどを確認し研修受入農家・JA・県・市で面接を行う。

資金計画については、地域受入連絡会が国、県、市への申請を支援する。

- ・農地や園芸施設の確保に対する支援について
地域受入連絡会が農地の確保、新規就農計画作成、販路確保の支援を行う。
就農前から就農後のフォローもする。
- ・就農年度2006年度の佐々木毅さんのファーマーを見学した。
年収3000万円で経費2000万円差引1000万円の収入
収穫時パート6人雇用する。
- ・新規就農者が多い理由
 - (1) 栽培技術の高い受入農家の下で1年間の研修ができる。
 - (2) 受入農家の近くで就農ができる。
 - (3) 地域で新規就農者の受入体制が整っている。
 - (4) 地域にあった経営可能な作物を作る。
 - (5) 条件の良い土地(日照、用排水、地力等)で就農できる。
- ・有機農業の産地づくり
持続可能な食と農の循環システムの構築に取り組んでいる。

質 疑

Q 特産品の六次化について。

A イチゴはジャム、ミニトマトはビール。

Q 道の駅はありますか。

A 伊豆の国市に3か所あります。

Q 移住者は、独身者ですか。

A 移住者は、独身者よりも結婚している人が多いです。

Q 経営形態は、法人で経営している人はどれくらいですか。

A 法人が1人であとは個人経営です。

Q 1年間の研修で技術が身につきますか。

A 1年では難しいので、研修先の先輩が近くにいるので相談できる体制となっている。

Q 伊豆の国市では、農業生産はどのくらいですか。

A 農業生産は、50億位です。

Q ミニトマトと大玉のトマトの比率は。

A ミニトマトが作りやすいので多い、大玉は、病気になりやすく収穫時には重く、
高齢者には重労働となるためミニトマトに切り替えている。

Q 人口の推移はどうですか。

A 少しずつ減少している。

南足柄市 1月29日 2日目 9:30 ~11:00

場 所 子育て支援拠点施設「にこっと」

進 行 斎川事務局次長

はじめに南足柄市議会副議長綱島麻実氏より歓迎の挨拶があり、その後に至誠会代表大和田博が挨拶をした。調査項目については、各担当者から説明があり、その後施設を見学した。最後に吉田副代表が御礼の挨拶をした。

調査内容

1.市の概要 玉野部長が説明

- ・南足柄市の概要について説明があった。

南足柄市は、神奈川の西端に位置し、都心から約80km、横浜から約50kmに位置している。面積は77.12km²の広がりをもち、北は山北町、東は開成町、南東から南にかけて小田原市及び箱根町に、西は静岡県小山町に接している。

昭和30年の町村合併促進法に基づいて、南足柄町、岡本村、福沢村及び北足柄村が合併して新しい南足柄市が誕生しました。昭和47年4月1日には、地方自治法の一部改正による3万人都市の特例を受けて市制を施行した。

昭和9年1月の富士フィルム(株)の創立とともに人口が増え始めた。

その後、アサヒビール(株)が創立されふるさと納税の30億円の8割がアサヒビール返礼品となりました。しかし、アサヒビール会社が撤退したため、現在企業の誘致を進めている。

大雄山駅前の市街地再開発事業により、商業・業務機能の集積が進んでいる。

令和4年4月には、出産・子どもネウボラ事業をはじめとする支援を必要とする子供と家庭を総合的にケアする拠点と、子育てニーズにこたえる子育てを応援する拠点、「南足柄市子育て支援拠点施設”にこっと”」が開所された。

新たに施設を建設よりは、家賃を支払っても経済的として判断して民間商業施設3階を借りて子育て支援拠点施設「にこっと」を開設した。

・子育て支援拠点施設「にこっと」は、親子が笑顔になれる場所。こども中心に沢山の人がつながって笑顔になれる場所、それが「にこっと」である。

- ・こども支援課、こども育成課が同時に設置された。

- ・施設館内を担当者から案内説明を受けた後に質疑時間が設けられた。

質疑

Q 民間施設で人の往来が多くありますが、防犯対策はどのように対策していますか。

A 警備員と職員で対応しています。防犯対策訓練も行っています。

Q 小中学生の利用状況について伺います。

A 年間 1 万人位です。また、こどもの居場所についてはアンケートを取り令和 9 年度整備する計画である。

Q 維持管理費と費用対効果について伺います。

A 維持費は、年間 3 5 0 0 万円です。費用対効果は、こどもの利用と南足柄市の PR など含みます。

Q 市民以外の利用者数はどの位いますか。

A 子育て支援の半数が市外となっております。イベント時の人数は把握できていません。

Q 「にこっと」の利用について伺います。

A 多目的、親子向けに利用、広域的に連携して子育て支援交流を行います。

また、放課後児童クラブ(民間事業に委託)に活用します。

Q 南足柄市の観光と金太郎について伺います。

A 金太郎はキャラクターとして PR に活用しています。金太郎は伝説であります。

Q 健診について伺います。

A 乳幼児健診と集団健診に利用しています。

Q 今までの事故について伺います。

A 今までの事故は転倒による打撲程度です。

Q 婚活事業について伺います。

A 商工会で婚活事業を実施したが、市は実施していません。

Q 利用時間について伺います。

A 子育て支援の利用時間の延長を行っています。

まとめ 成果

- ・伊豆の国市の調査については、新規就農者(ニューファーマー)の育成支援について調査した結果、移住定住者の新規就農者の育成に地域一丸となって支援している、また移住定住者の研修実施による技術指導、さらに先輩が技術相談にのり収入が安定するまで支援を続ける。田村市が今抱えている移住定住者の新規就農者に対する問題点の参考にするところが多く知ることが出来た。田村市においても、移住定住者が安定した生活ができるまで、支援できる組織形成が必要である。

- ・南足柄市の調査については、子育て支援拠点施設「にこっと」の運営について調査を実施した。子育て支援拠点施設「にこっと」は、ヴェルミ2ビルディング地下1階地上4階の3階を改造して開設した施設です。ビルディングの各階フロアは、地下1階は駐車場とロードショップ、1階はフードショップフロア、2回はハッピーライフフロア、3回はファミリーフロア、4回はライフアップフロアとなっている。

3回のファミリーフロアには、子育て支援拠点施設「にこっと」、行政窓口こども育成課とこども支援課、それから子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、そして交流スペース・フリースペースのフロアとなっている。

今後、田村市においても、利活用しやすい子育て支援拠点施設を検討しなければならないと考える。総合施設は、新設するより既存の公共施設や民間の施設の増改築の検討も必要考える。今回の先進地視察研修したことを、今後の田村市の事業推進の参考事例として推し進めたいと思います。